

グループホーム大池・Aユニット

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	8	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	1	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社名変更により平成19年7月に新たに開設となる。これを機に既存の理念を見直し、地域の中での関わりや役割も検討した。現場で実践できることを目標として、全職員の思いや考えをまとめた理念を作った。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務に入る前には、必ず理念の唱和をしている。方針や目標を理解するために、日常の現場で介護の在り方を理念と照らし合わせて考えたり、カンファレンスの中でも具体的に伝えて取り組んでいる。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、訪問時や家族会などの度に、理解を得られるように伝えている。また、運営推進会議、ボランティア、見学者、地域の少数の方などの関係者には理解を得られていると思う。しかし、地域の人々にわかりやすく理解してもらえようような取り組みまではできていない。	1	地域の集まり等の参加時、より積極的な関わりを持ち、折に触れて理念等を説明していく。地域の方に施設を開放し交流機会を増やし、理解を深める機会を作る。
		2	地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	2	
	2	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけている。商店街前で休憩を取り、近隣の方々と挨拶や会話を楽しみ交流を図っている。	0	
		5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館のさくら教室や町内の行事ごとなどには参加をしている。また、民謡の先生（ボランティア）の指導を受けた成果を地域の方々と一緒に発表の場に参加をしている。しかし、地域住民の一員として、双方が支えあうような関係までに至っていない。	1	公民館便りのみで近隣の活動情報を知ることだけに終わってしまっている。（大池や寺塚には老人会が無いとのこと。町内会長にもお願いしているが・・・）地域活動の情報をこまめに得るように努めて、地域の一員としての活動や役割を考えて実践していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地え域合といの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	勉強会の参加や実習生の受け入れも行っている。地域の方からの介護に関する相談を受けたり、必要な支援も実施している。またご家族の要請で平和町の老人会で認知症に関する講話を行った。しかし、受身の姿勢であり積極的には地域貢献ができていない。	1	積極的に勉強会に参加し、認知症ケアの啓発に努める。地域の方へ認知症に関することなどの勉強会を行ったり、相談しやすい施設作りに努める。
		3	理念を实践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	1	
		7 外部評価4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解したうえで、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、すぐに報告して改善策を検討し実施している。	0	
		8 外部評価5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動やサービスの実際を報告し、意見交換や評価を得ている。また、地域の情報や連携を得る機会にもなっている。その意見や評価を今後の取り組みに生かしている。(自己評価と外部評価の結果は公表し、改善に向けた具体的取り組みの参考にしている。)	0	
		9 外部評価6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会や生活保護の担当者とは、入居者の介護サービスに関して相談や助言を受けている程度である。社会福祉協議会の担当者よりワークキャンプの依頼があり、受け入れ施設となった。	1	市町村に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えて、関係作りを積極的に行う。
		10 外部評価7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修については、できるだけ多くの職員が学ぶことができるようにしている。成年後見制度については、ご家族に情報提供をしている。また、地域福祉権利擁護事業を利用している利用者がいる。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスなどを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解に向けた取り組みを行っている。虐待に関する報道などがあれば速やかに話し合いを持ったり、入居者の方の小さな傷や痣も気づいたら見逃さず、再発防止に取り組んでいる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	1	
理念に 基づく 運営	4 理念を 実践す るため の体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明をしている。(必要事項・理念・介護などについて)ご家族に応じて、事例をあげて詳しく説明するなど理解や納得を得るように努めている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々利用者の不安、意見等は、話し合い解決をしている。月1回は、茶話会形式で意見を聞くようにし、そこで出た意見を運営に反映させるようにしている。	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族の訪問時に、月の予定、利用者の様子・健康状態、職員の移動、預かり金残高等を書いたお知らせ表を渡している。面会が遠のいている家族には、電話で近況報告を行っている。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけや家族会の話合いを通じて、意見や要望などを言っていただけるような関係づくりに努めている。(表情や口調なども見逃さないように)意見や小さな苦情も話し合い解決に向けて取り組んでいる。その取り組みを運営推進会議で報告し評価を受けている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議前に各スタッフより意見や要望を聞き改善するように取り組んでいる。	1	その場で不満や要望など言いにくいこともあるのではと思う。できるだけ率直な意見などを話し合える機会を作っていきたい。運営者や管理者とスタッフとの個人面談を定期的に行うようにしたり、話し合いの場をつくったり、申し送りノートを活用したい。(できるだけリラックスできる雰囲気作りをする。)
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯(早出・日勤・遅出)は3名のスタッフの体制である。利用者の状態や生活の流れに応じ、勤務者数や勤務時間を調整している。大がかりの外出などは、休みのスタッフも参加してくれる協力体制がある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 践 制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族の信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。移動は必要最小限に努めている。異動や離職がやむを得ない場合は、引き継ぎがスムーズにいくように努力をしている。また、日頃よりユニット間の交流を深め、他のユニット職員と顔馴染みになれるようにしている。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	3	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ募集や採用に関しては、何も制限はしていない。介護観や人柄を重視している。スタッフの能力を勘案し、その能力が発揮できるような関わりをもつよう努力している。資格の取得や趣味を現場に活かすよう支援している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、理念を踏まえて尊重や思いやりを意識した現場指導に努めている。カンファレンスや勉強会(人権啓発のビデオ利用)のとき、人権について考える取り組みをしている。また、研修や公民館の講座にも参加している。しかし、人権啓発の取り組みが積極的であるとはいえない。	1	人権に関して、さまざまな方法でアプローチし、意識を喚起する取り組みを考えていく。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修にはなるべく受講できるようにしている。研修報告は、勉強会やスタッフ会議、朝礼などで伝達し、報告書・資料は閲覧してもらっている。また、スタッフ会議で事例検討などを通して学ぶ機会もつくっている。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「ふれあい会」(宅老所よりあい他)に参加しネットワークづくりや学びの場となっている。グループホーム協議会には、非会員として参加のみ。事業者同士の交流や学習会に参加して質の向上に取り組んでいきたい。	1	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会、「ふれあい会(長住)」ネットワークを参考にして、近隣の事業所との情報を共有し合いネットワークの構築に努めたい。地域の認知症ケア、サービスの質の向上を目指していく。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務に追われている感がある。管理者は個別の要望や毎月のスタッフ会議などで意見や要望等を聞き、ストレスの軽減のための業務改善にも取り組んでいる。	1	今後もスタッフ1人1人の意見を大切に、コミュニケーションの活性化を図り、広くスタッフの意見を取りまとめ、ストレス軽減のためチームワークの構築を図っていく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場に来て、利用者とは過ごすこともある。管理者とは、常に情報交換を行い、個々の職員の業務状況、日頃の努力や成果などを把握できている。職場環境や一人ひとり意欲や向上心が持てるように、前向きに努力している。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1 相談 から 利用 に至 るま での 関係 づく りと その 対応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。ご自宅へ訪問し、顔を覚えていただき、入居時に生活様式があまり変化しないように努めている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでのご家族の苦労や経緯などについて、ゆっくり聴くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階につなげている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。	0	
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、体験利用で職員や利用者との交流や関わりを持ってもらい納得した上でサービスの利用としている。1階の通所を利用しておられた方で、日頃より交流を持ち、馴染みの関係となり入居へスムーズにつながったケースがある。	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価6項目・外部評価1項目	0	
係り と これ まで の 関係 づく り の 支 援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。お互いが協働しながら生活できるように場面づくりや声かけをしている。本人の得意とする事ができるような関わりや役割分担を持ってもらい、その都度、労いや感謝の思いを伝えている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなってきている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出で家族と一緒に過ごすことをされたり、行事に家族を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で、家族や友人や同宗派の方、手話の会の方など頻りに面会に来られている。なかなか来られないご家族へは電話などで連絡を入れ、面会に来てもらっている。今後、馴染みの美容室などへ行くことができるように配慮したい。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	合う合わない方がおられることから、相手を理解してもらったり、席替え等で調整している。現在の席はかかわりやすい方同士で会話も増えている。支えあったり理解していただけるように職員が調整役となって支援している。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の方より他の方の紹介があったり、相談を受けたりすることがある。継続的な関わりを大切にしていきたい。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価17項目・外部評価6項目	1	
1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)				自己評価3項目・外部評価1項目	0	
1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		一人ひとりの思いや暮らし方の希望は尊重するようにしている。入浴時間の希望、行ってみたい場所、食べたい食事など本人本位で対応している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族へ生活歴の聞き取りを行っている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんなものが好きなのか、希望はないかアセスメントをおこなっている。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)		自己評価3項目・外部評価2項目	0	
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換や評価カンファレンスを行っている。	0	
		39	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族の要望・本人の要望に応じて見直しを行っている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、食事・水分量・排泄など身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づきなどを記録している。職員は、勤務開始前に確認をして、申し送りを聞くようにしている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)		自己評価1項目・外部評価1項目	0	
	3 柔軟な支援	41	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の方針として、通所利用者(認知症)が、自宅での生活が困難になった時に、馴染みの職員と環境への穏やかな住み替えの支援を考えている。本人や家族の状況に応じて、外出・外泊の送迎、通院、入院時などの支援。また、医療連携体制を活かした取り組み(負担となる受診や入院の回避、	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の活動に参加したり、ボランティアの民謡教室を通して地域の方と交流を深めている。民生委員の方などと意見交換する機会を設けている。ボランティアの方の催しなどは定期的にあるが、気軽に行事等の際、お手伝いをして貰えるような関係づくりに努めたい。	1	ボランティアへの協力や幼稚園との交流など呼びかけていきたい。(関係作りをしていく)
	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	嚙嚙の方には病院受診など手話支援を福岡市に依頼したり、手話の会に参加・交流をしている。訪問理美容を利用している。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。情報交換、助言など受け協力関係を築いている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医(在宅医療機関とご家族の契約のうえ)の定期的な往診を利用。24時間いつでも相談が可能である。他、利用者のかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったりしている。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医に情報提供や相談をして、適切な指示や助言をもらっている。困難事例のときは、専門の物忘れ外来の受診をする。	0	
	47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員といつでも連絡がとれる体制にしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供を行っている。面会は、頻繁に行き身のお世話をしている。(食事介助など) また、入院先の医療関係者と症状の確認を行うなど、早期退院に向けた支援をしている。	0	
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携同意書の説明の際、重度化した場合や終末期のあり方についての説明や最高齢の利用者のご家族に対して、思いを確認しただけである。終末に対する対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えての話し合いが必要である。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件などを備えるなどの話し合いや準備が必要である。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報収集を行い、きめ細かい連携を心がけている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価38項目・外部評価11項目	1	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	1	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		52 外部 評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の話を傾聴し、思いを否定しない対応とさりげない対応などを心がけている。日々の関わり方を振り返り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の中で本人が意思表示ができるような声かけをしながら、決定できるように支援している。(外出や外食先の選択、食べたい物、ビデオの内容など)	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者中心の暮らしができるように努めている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向や好みによって選べるように援助している。TPOに応じた装いをしてもらえるよう心がけている。現在は、訪問美容利用の方が多く、その方の希望に合わせた支援を心がけている。今後行きつけの美容室へ行きたい希望があった場合は対応したい。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなど利用者と共に行い、職員と利用者が一緒に食事を摂っている。(厨房で調理しているが、盛り付けはユニット。朝食と日曜日はユニットで調理。食べたいものを聞いている。)	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解している。本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるよう支援している。(毎日、晩酌をしている方、パン食、バナナやチョコレートの希望に応えている。)	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表やその方の動作などによって、職員が排泄パターンを把握している。オムツの方も日中は布パンとパットを使用し、きもちよく排泄できるように援助している。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番の好み、その人の入浴時間、介助方法など、ゆったりと気持ちよく入浴できるように配慮している。(一番風呂希望の方、遅く入りたい方など希望を尊重している。)	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を通して、生活リズム作りを意識的に行っている。安心して気持ちよく休息できるように昼寝やその方の体調に応じ起床時間なども考慮している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味やできることを把握して、楽しみや活動ごと、役割、出番を見出す場面を作るよう支援している。(食器洗い・拭き、歌、散歩、買い物、趣味活動など)	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いのできる方や、肌身離さず持っていらい方には、財布からの支払いを実施している。またスタッフと共に支払うなど、その方に合わせた支援をしている。鞆にお金を入れて持ち歩くことで安心している方もいる。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に行きたいと希望があった場合は極力希望に沿うようにしている。職員が付けない時間帯であれば、時間をずらし対応している。利用者の希望や楽しみごとに合わせて、外食やコンサート、ドライブ、地域の行事参加など、日々の散歩や買い物など外出の機会をできるだけ作っている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者より行きたいところの希望があった場合は、できる限り計画し実施するよう努力している。家族の協力を依頼することもある。	0	
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方とのつながりを保っていただくために、電話や手紙の通信を支援している。家族に会いたいなどの発言があれば携帯電話などで会話をしてもらおうこともある。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人の方が訪問されると職員は笑顔で迎え、居心地よく過ごせる雰囲気作りに努めている。面会時はゆっくり過ごされている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	1	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を通じて、正しい理解を図っている。介護上の工夫を実践して拘束のないケアを目指している。	0		
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、一緒について行くなど自由な暮らしができるように努めている。ホーム入口にセンサーを付け、出ようとされていることが分かるようにしている。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員 1 名は、必ずリビングで関わりや記録などの作業を行いながら見守りを行っている。居室で過ごされている場合も声をかけたり、お茶等を運んだりしながら様子を確認している。夜間帯も数時間ごとに安全を確認している。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては、注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。	0		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態から予測される危険を検討し、事故防止に取り組んでいる。報告書を作成し、職員全員で検討し、対策をたっている。家族への説明と報告を行っている。	0				

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や蘇生術の研修を受けているが、一部の職員に限られている。全ての職員が実際の場面で対応できるように、応急手当ができるよう定期的に勉強会や訓練を実施していく。	1	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施する。応急手当の勉強会を実施する。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回非難訓練実施。消防署の指導を踏まえ、非難経路や非難場所の確認、当ホームでの有効な非難方法等、自主訓練を行っている。地域での協力的体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。(町内のマップ作りなど)	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と利用者の状況を確認しながら、起こりうるリスクについて説明している。さらに本人の意思を尊重した自由な生活の大切さを話し合い、そのうえでリスクもあることを具体的に説明して理解を得ている。状況変化に応じて説明をしている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、健康チェックを行い状態を確認している。普段の様子は把握できているので、少しでも「おかしいな」と気づいたときは、看護師に報告をする体制である。看護師より予測されることや注意点などの指導を受け実施している。状況により医療受診につなげている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表で確認できるようにしている。またセッティングシートの薬札にも記入。薬の目的、用法、用量の理解は、ある程度理解できている。誤薬や飲み忘れのないように毎回日付と氏名を声に出している。本人の状態を把握し、往診医師へ情報提供している。(看護師)	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品(毎朝)を採り入れている。散歩や家事活動など身体を動かす機会をもち自然排便を促すよう取り組んでいる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守りや介助を行っている。嗽の際、排痰もできるようになっている。訪問歯科を利用し、口腔内のケアやチェックなどを実施している。	0		
		79 外部評価 31	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考慮し、厨房で一括調理をしている。(朝食や日曜日は、各ユニット) 摂取量や水分量のチェックを行い把握している。肥満や糖尿の方に対しては、量や味付けに配慮している。また、偏食の著しい方には嗜好品を主に食べていただき、不足カロリーは栄養補助食品などで対応している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルを作成して実行している。インフルエンザやノロウイルスなどの勉強会を実施している。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品衛生マニュアルを作成し、誰がどのようにするか業務手順に明記して実行している。冷蔵庫の食材点検・処分・清掃をこまめに行っている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	0	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	0	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	3階建ての改修した建物であるが、周囲には同じようなマンションが多く、違和感がないように思われる。玄関先にプランターやベンチなどを置き、親しんで貰えるように配慮している。	0		
		83 外部評価 32	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いリビングに普通の家庭にあるような一般的な物を置いている。自由に使ったり、思い思いに過ごされるような環境づくりに努めている。玄関や壁には季節感を取り入れた花や飾りつけ、台所では食事の用意や片付けなどの臭いや音があり家庭的な雰囲気を出している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファを配置。狭いがいつも皆が集まって、雑談をしたり新聞を読んだり、時々、仲の良い方向士でどちらかの居室で過ごすなど思い思いに自由に過ごすことができる雰囲気がある。利用者間でトラブルが起こった場合など席の配置を工夫している。	0		
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や鏡台、仏壇などを持ち込まれて、馴染みの品物が置かれている。写真やぬいぐるみなど思い出の品物もある。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	狭いリビングにいつも集まっている状況なので、こまめな空調機の調整と定期的な換気には十分配慮している。(居室も同じく)臭気になるものは、速やかに始末をしている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室などに手すりを設置している。トイレ内は固定式と可動式の手すりで、その人に合わせて利用をしている。構造上の問題は大きい家具の配置を工夫している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「何がわかりにくいか」「どうすればいいか」と常に話し合いをして、状況に合わせた環境整備・工夫などに取り組んでいる。混乱や不安な思いをしないように原因となるものを取り除いたり、転倒につながらないように環境整備を行い、本人が安心できるように対応をしている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にプランターの花を植え、水やりなどを一緒にしている。散歩より戻ったとき、一寸一息するためベンチに座り、花を観て楽しんでいる。ホームの畑の収穫やウッドデッキの日光浴も楽しみのひとつにもなっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。